

## 第11回策定会議意見における意見集約

区分	意見の概要	検討事項
自治組織	地区そのものの在り方をもう少し考えないといけない。	
	行政と住民が条例を通じて理解し合っていくか。	
	区の役割・責務が今のままでよいのか。今後議会の承認のためにもその辺が大事。	
	行政区・自治区を抜本的にどうするか、方針を決めてほしい。	
	住民の声を行政区が阻む、邪魔をしている。	
	区制度で直接民主主義、小さな自治にしていく、区のありようを見直す。	
協働	町民の活動を作っていく、盛んになっていくことで地域にいろいろな動きが出てくる。町民活動全体を促進しながら協働でやっていきたいと思いますという条例。	
	条例が浸透していろいろな方と支え合いながら、いろいろなやり方・方法を見つけていけるとよい。	
子ども	中学生ぐらいから政治とか大口町に関わってほしい。	
	新生大口を背負う子ども達の参加があっても良い。	
	子どもを定義して、子どもでもできる参加を。 子ども、孫、ひ孫まで続くような、子どもを大事にしていくということを条例に入れてほしい。	
参加の制度	参画の手続き、仕方が案にはよく見えない。参画の方法が具体的に見えない。 参画・提案・提言の方法が抜けている。	
条例の表現	条例の認知度は高まった。しかし、まちを変える条例だから、策定によって変化の兆しが伝わる、変化の過程が見える必要がある。	
	町民は上からくると受け止めている。	
	押し付けられる、余計なことをしなければならない。	
	分かりやすい言葉、表現を細かく検討をする必要がある。 今まで見たことがない文章表現。	